

令和2年度 2学期いじめ防止対策の取組状況に係る報告

1 未然防止への取組

(1) 「居場所づくり」「絆づくり」を重視した学級・学校づくり【心の絆プロジェクトの取組】

※今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、市教育委員会と各学校とが連携しつつ、学校ごとに取組を検討・実施している。各学校の特色ある取組については資料2で報告する。

(2) 心の絆プロジェクト生徒会・児童会代表者ミーティング ※新型コロナウイルス感染拡大により中止

- いじめ防止標語の募集【再掲】と12月4日から10日に合わせた「いじめ防止啓発ポスター」を掲示した。
- 令和3年度「心の絆プロジェクト」テーマについて、12月に各中学校生徒会へアンケートを実施し、令和3年度テーマに盛り込むキーワードをまとめている。1月にキーワードをまとめた資料を各生徒会へ送付し、2月末を目途に決定していく予定である。

2 早期発見・早期対応への取組

(1) 児童生徒の相談行動の促進

① 相談行動促進（自殺予防教育）授業の実施について

- 実施率は100%である。（小学校28校 中学校12校）
- 相談行動促進（自殺予防教育）リーフレット「大切なあなたへ」「大切なあなたへ 友だちへ」の2種類を活用した。（各1単位時間を計画し、実際には各学校の実情に応じて実施）

② 児童生徒の様子（授業実施後アンケート及び聞き取りから）

<小学校>

- 前向きな思考、聞き方・話し方の大切さを実感した。
- ロールプレイを通じ、気持ちの伝え方を体感したことで実践ができるようになった。
- 友人のSOSを敏感に捉え、上手な聞き手になろうとする気持ちが高まった。
- 子どもから「実際の場面でも生かせそう」「友だちも自分と同じような悩みがあることが分かった」という感想があった。

<中学校>

- プチハッピーが身近にあることに気づき、ロールプレイの中で自分たちの表現にしていることを楽しんだ。
- 表情が明るく、友達の意見に耳を傾けていた。
- 話の聞き方による差を実感するなど、様々な発見があった。
- 励ましもうれしいが、親身になってくれる方が落ち着くという意見も出ていた。
- 共感してもらおうとホッとするなどの気付きがあった生徒が多く見られた。

③ 各学校の感想・意見

<小学校>

- 「身内に自死がいる」とのアンケート結果があり、当該児童へのフォローのため管理職を含めて複数の教員でサポート体制を編成し受け止めた。
- 相談行動促進（自殺予防教育）教育を毎年積み重ねていくことが大切である。
- 悩みの相談方法を伝えることができた。
- 悩みに対してどう対処するか、また命について考える良い機会となった。
- リーフレットが使いやすく改善されている。
- ▲リーフレットの内容が豊富なため、1種類のリーフレットの内容を45分の授業では扱いきれないことがあった。

<中学校>

○命の大切さと守り方を知る上で大切な時間だと感じた。

○些細なことでも喜びと感ずることができ、言葉遣いや態度に気を付ける生徒がいた。

○年々実施することで心の変化を見て取ることができる。

▲真剣に悩んでいる生徒にとっては軽すぎる気がした。一人ひとりの心の有り様に応じた授業の実施はとても難しいと感じた。

▲毎年同じ内容を実施するのは難しい。

▲ロールプレイの中で死に関する内容が出るのではないかと不安を感じた。

▲必要性の高いものを中心として、2冊を1冊にまとめてもよいのではないか。

④ 課題・成果

相談行動促進（自殺予防教育）の取組も2年目を迎え、感想にも表れているように児童生徒及び教職員にも本取組の定着が進んでいる。特に、実際にロールプレイを行うことで、実感を伴った気付きと経験を得ることができる点について、肯定的な意見が寄せられる結果となった。一方で、時間的な負担感や実践する上での気づきなどから、リーフレットの内容の削減や精選についても意見が寄せられている。来年度に向けてリーフレットの改訂を行い、学校ごとに研修の機会を充実させるとともに、学校の意見を反映させつつ、継続的な取組としていく。

(2) いじめの認知件数 ※12月末まで（速報値）

① いじめ認知の推移

() 内：昨年度実績 単位：件

校 種	1 学期				2 学期					合計
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
小学校	1 (50)	3 (66)	50 (108)	87 (160)	34 (0)	57 (56)	100 (89)	73 (128)	93 (94)	498 (751)
	141 (384)				357 (367)					
中学校	0 (24)	0 (18)	15 (53)	14 (50)	9 (0)	38 (21)	18 (43)	26 (23)	45 (35)	165 (267)
	29 (145)				136 (122)					
合計	1 (74)	3 (84)	65 (161)	101 (210)	43 (0)	95 (77)	118 (132)	99 (151)	138 (129)	663 (1,018)

② いじめの様態

単位：件

いじめの様態	小学校		中学校		合計	
からかい・悪口	294	59.0%	114	69.1%	408	61.6%
仲間外れ・無視	36	7.2%	8	4.9%	44	6.6%
ネットでの誹謗中傷	8	1.6%	19	11.5%	27	4.1%
暴力	71	14.3%	8	4.9%	79	11.9%
恐喝	2	0.4%	0	0%	2	0.3%
その他 ※	87	17.5%	16	9.6%	103	15.5%
合計	498	100%	165	100%	663	100%

※落書き、もの隠し、嫌がらせ、いたずらなど

③ いじめ発見のプロセス

単位：件

発見のきっかけ	小学校		中学校		合計	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
アンケート	155	31.1%	7	4.3%	162	24.4%
本人	125	25.1%	84	50.9%	209	31.6%
他の児童生徒	36	7.3%	22	13.3%	58	8.7%
学級担任	29	5.8%	9	5.5%	38	5.7%
関係教員	4	0.8%	6	3.6%	10	1.5%
養護教諭	0	0.0%	1	0.6%	1	0.2%
保護者	146	29.3%	34	20.6%	180	27.1%
その他 ※	3	0.6%	2	1.2%	5	0.8%
合計	498	100%	165	100%	663	100%

※独自の教育面談、スクールカウンセラーなど

④ 分析・評価

- ・1,000人当たりの認知件数において小学校の平均は35.3件、中学校の平均は23.7件となっており、昨年度実績より減少している。これは、新型コロナウイルス感染症予防のため、児童生徒同士の関りが制限されていることや、アセスの結果において非侵害的関係の値が要支援の児童生徒の数が大幅に減少していることも要因と考えられる。一方で、「いじめをしないさせない 見逃さない」を徹底するため、より積極的な認知と早期発見に向けた丁寧な関りについて各学校への啓発活動に努めていく。
- ・中学校において、アンケートをきっかけとしたいじめの認知件数が7件と少ない状況が続いている。各中学校において、生活ノートを活用した観察や定期的な教育相談を行い、本人及び他の生徒からの相談に起因して、いじめが発見される割合が高い状況にあるが、今後、児童生徒・教職員の負担感も参酌しながら、各小・中学校独自で行われるアンケートとの兼ね合いの中でアンケート実施方法や質問項目の検証を行っていく。

3 関係機関との連携を強化した取組

(1) スクールサポートチームの活動状況について【2学期】

○ 学校支援カウンセラー（心理相談員） <アウトリーチ件数について>

内容	臨時休業期間		学校再開								合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
学校訪問・生徒の様子確認 ※1		11	1								12
発達課題	1		1						1		3
不登校			1								1
学校不適応			1	3							4
希死念慮			2			2	1	2			7
自殺企図			1				1				2
行き渋り			1								1
虐待			1	1							2
ケース会議					2			1			3
その他 ※2								2	11		13
合計	1	11	9	4	2	2	2	6	11		48

(用語解説) ・希死念慮：死にたいと思うこと ・自殺企図：実際に自殺を企てること

※1 心理相談員と指導主事がメンタルサポーター及び不登校担当者から聞き取りを行うために各中学校へ訪問したもの

※2 学校不祥事等における児童生徒の心理ケアとして対応したもの等

○ いのちと心サポート相談員（校長OB）

電話相談件数・・・103件 面接対応件数・・・17件

○ 学校安全支援員（警察OB）

電話対応・・・3件 面接対応・・・25件 関係機関との連携・・・14件

- スクールロイヤー（弁護士）
2学期に助言した件数は8件

No	学校からの相談内容
※No 1～5に関しては第2回評価検証委員会にて報告済み	
6	町内会会長から少年補導委員を巡回させないようにと抗議があったことについて
7	いじめ被害・加害生徒が同じ適応指導教室を利用することについて
8	保護者に担任の個人携帯番号を知らせていたため、時間を問わず電話がかかり、長時間電話に拘束されることについて
9	体罰事案後の方針について学校が被害児童保護者に文書を要求されたことについて
10	学校事故発生後に発出する保護者への説明文書の留意点について
11	学校で発生した児童同士のトラブルによるケガについて、学校の対応が安全配慮義務に照らして適切であったかどうかについて
12	ケガをさせた加害児童保護者が被害児童保護者に対し慰謝料を支払うことについて
13	非違行為を行った教職員の処罰に対する管理責任者の対応について

(2) ネットパトロール事業の実施状況について ※当該事業は令和2年度5月補正で予算措置

① 専門機関からの情報提供 (12月末) (単位:件)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
専門機関からの情報提供	—	159	92	155	196	152	160	130	388	1,432
見守りを要する事案 ※1	—	28	12	29	17	16	17	17	21	157
学校への対応依頼事案 ※2	—	1	3	1	6	2	1	1	2	17
関係機関への情報提供	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※1 加古川市少年愛護センターと専門機関が協議し、今後、見守りが必要であると判断した事案

※2 加古川市少年愛護センター内で追調査、協議、精査し学校へ対応を依頼した事案

② 見守りを要する事案

- ・小学校生徒指導担当者には合同補導等の機会に情報提供
- ・中学校生徒指導担当者には月例開催の中学校生徒指導担当者会において共有

③ 学校への対応依頼事案

- ・主に管理職へ情報提供し、学校から当該児童生徒及び保護者へ安心・安全なインターネット利用について指導を行う
- ・自殺を仄めかすなどSOS情報を発見した場合、緊急対応事案として専門機関から即時連絡が入り、対応を検討

④ ③の事例

- ・問題行動・校則違反の動画投稿
- ・危険行為等の動画投稿
- ・友人への暴行動画
- ・生徒間トラブルに係る誹謗中傷
- ・いじめ被害のでっち上げ動画
- ・個人情報の投稿
- ・他者への脅迫行為を文章にして登校
- ・教員への批判・不満の投稿 等

4 推進体制・検証体制を整える取組

(1) アセス推進体制の検証と支援

- アセスの結果と取組状況は資料2で説明します。

(2) いじめ対策委員会及び不登校対策委員会の機能的な運用

- ユニット別不登校対策委員会（ユニット情報交換会）の実施【再掲】

(3) いじめ対策へのPDCAサイクルによる評価検証体制の推進

- 各学校の改善プログラム取組状況については資料2で説明します。